

- 立科小学校／午前9時～午前11時30分
電話 0267-56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校／午後2時～午後5時
電話 0267-56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館／
午前 11時50分～午後 1時40分
電話 0267-56-0303(直通)・有線8888(直通)
(担当 指導主事 中島一彦)

指導主事だより

教育委員会

なんだかうれしい

自分を誇れる学校か

二十歳になった2人の青年が
小、中学校時代を語る。

昨年、立科町教職員研修で教育実践家菊池省三先生をお迎えしました。全国の学級崩壊した教室を次々と立て直していく実践家でもあります。その菊池先生が小学生を担任し、その子どもたちが二十歳になった時に当時の学級をふり返る対話をします。その対話でのAさんと、B君二人の語りが著作の中に記されています。

今、生きづらいな、寂しいな、誰も分かってくれないで、怒られてばかりだな、
と思っている小さい頃の僕みたいな状況の子が、やっぱり先生に怒られている。

B君

「これは、ダメ」とか、「ああしなさい、こうしなさい」というのは、例えば、誰々先生から「じっとしていなさい」とか、「静かにしなさい。ちゃんと席に座りなさい」「元の教室に戻りなさい」っていうのは、僕のために言ってくれているというのは、あまり正しくなくて、どちらかという、教室の調和のためというか、教室が崩れないように、事故らないように、安全運転するために、小石をどかしているような行為だから、なんでそういうことを、この人たちは言ってきて、なぜ自分は今こういうことをしているんだろうというのを、自分の心で一回深く考えてみると、いいかもしれないと思います。

僕と同じような理由で叱られている人は、面白いことが大好きだと思うんですね。

それを制限されちゃうっていうのは、すごく苦しい事だと思うし、僕もすごく苦しかったから、その「楽しいことをしたい」っていう気持ちを本当に捨てないでほしい。
どれだけ言われても、それだけは捨てないでほしいと思います。



小学校4年生までは、お母さんから「最近、学校どう」と聞かれても、あまり答えたくなかったし、「私は、学校でいい子だよ」みたいな嘘をついていました。

小学校5、6年の時は、質問されなくても自信をもって自分から、「こういう質問をされて、どういふことで褒めれて」とかたくさん話していたんですね。

自分を誇れるような生活が出来ていたこと
にも幸せを感じていたんです。 **Aさん**

二人の青年たちの声が心の中に響き続けています。立科町の子どもたちが 例外なく、どの子も学びの主人公として位置づいてほしいと思います。教育は、どの子にも役立つものでなければなりません。一人も見捨てない・・・教室、授業、学校を、そして教育のあり方を問い続けていきたい。

「自分を誇れるような学校か」「とことん好きなことを探究できる授業か」の二人の青年の問いを、どう引き受けるべきなのか、立科町の先生方と考え続けていきたいと思うのです。

聴き合い、認め合い、つながり合っていく学びを確かなものにしていきたい。そのためにかけがえのない愛おしい存在としての子どもたちへの慈愛に満ちる子ども観、そして教職員が高い同僚性を生み出していく必要も求められます。新しい年が始まりました。移ろいゆく季節、時の流れをひしひしと感じる今、学校での暮らし一つひとつのかけがえのなさを思いながら、歩み続けていきたいと思っています。

[引用：菊池省三『授業を変えよう』中村堂]